

子どもを大切にする行政と言えるのか

少子化理由の幼稚園・保育所・小学校統廃合推進

9月議会一般質問で取り上げる・住田由之輔

2014年12月、幼稚園と保育所の統廃合計画の説明がありました。それによれば

- ①川西北幼稚園、川西中央保育所、小戸保育所、川西北保育所を廃園にし、美化環境部が事業を行っている分庁舎を壊し、幼保一体化施設をつくる。美化環境部は旧松山浄水場跡地へ新設して引越し。
- ②加茂幼稚園、加茂保育所を廃園にし、旧加茂小学校跡地に幼保一体化施設をつくる。
- ③牧の台幼稚園、緑保育所を廃園にし、牧の台小学校敷地に幼保一体化施設をつくる。

現在の状況は

- ①緑台小学校と陽明小学校を陽明小学校に2018年から順次統合へ。その説明会を実施。
- ②清和台小学校と清和台南小学校を南小学校へ2019年から順次統合へ。その説明会を実施。
- ③先行して建設するとしていた緑台中学校区幼保連携型認定こども園について地元説明会を実施するが、整備法人募集は一時中断する。
- ④緑保育所と牧の台幼稚園の統廃合は説明会を実施、即設計を発注する構え。
- ⑤加茂幼稚園と加茂保育所の統廃合は検討中。
- ⑥川西北幼稚園と3つの保育所統廃合は進展していない。この施設の前面に持つてくるとしていた南消防署建設も進展なし。

その他に当初説明のあった公共施設の再配置計画ががらりと変わってきています。

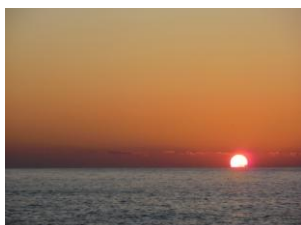


川西まつりでリフトに乗り楽しむ子どもたち

住田が問題にした論点は

- ①少子化を理由にした統廃合で子どものための環境整備と言えるのか
- ②少子化対応の教育ができないのか
- ③一定規模の確保は教育の平等性、公平性として必要と言っているが言葉だけではないか
- ④中山間地の少人数学校でもしっかり教育は行われている
- ⑤廃園、廃校になった周辺はさびれる。地域のにぎわいがなくなってしまう
- ⑥安全に使える施設を廃止することはむだ遣いではないかなどです。

残念ながら論点がかみ合いませんでした。国などが示す適正規模で行うことが教育の十全な展開、教育上の平等、公平であり、子どもも教員も学校運営がやりやすいという答弁の繰り返しでした。



くらしの

「由さん」の 便り

2015年 11月 352号

川西市議会議員（日本共産党）

住田由之輔 すみだよしのすけ

連絡先・下加茂 1-24-23

ケイタイ 090-9283-6739

川西市から職員を派遣している 宮城県、南三陸町と女川町を訪問しました

まちの形は大きく変わってきています。

土が盛られ、山が削られ、「計画のもとで」のまちづくりが進んでいます。

震災以後、三陸への訪問は4回目になります。

そのうちの一回は日本共産党議員団で、「公費」により、浪江町からの避難者仮設住宅訪問、福島原発一号機から10キロの南相馬市小高など視察しました。

その他今回を含めて「私費」での訪問です。

右の写真は南三陸町旧庁舎の防災棟です。ここだけが残され、ほとんど「盛り土」によって見えなくなりそうで、それだけ土を盛り上げています。



左の写真 10月に開校した戸倉小学校。山の上に建設。もう犠牲者を出したくないとの配慮からです。

地域は別ですが、右の写真は旧大川小学校校舎です。

ぽつんと残された建物を見るだけでもつらいですね。



左の写真は戸倉小学校に隣接する復興住宅です。海拔50メートルはあるのでしょうか。避難道路として直線500メートルの一本道がつけられていました。

下の右写真は女川町駅舎付近。かなりの高さで造成され、中央に立てば海が見えるような配慮がされていました。

下右写真は女川町仮庁舎横のグラウンドを復興住宅として活用し、すでに入居されていました。

派遣された職員は元気に職務に励んでいました。

